

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21320041

研究課題名（和文） 沖縄奄美民俗音楽資料のデジタル化と民俗音楽の変容に関する歴史研究

研究課題名（英文） Digitalization of the Okinawan and Amamease Folksong Recordings and a Historical Study on its Change

研究代表者

金城 厚 (KANESHIRO ATSUMI)

沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：50183273

研究成果の概要（和文）：

本研究は、東京芸術大学の故・小泉文夫教授が 1960 年代から 80 年代にかけて収集した沖縄・奄美民謡の録音テープを、保存のためにデジタル化し、それらをアーカイブとして公開することの出来る環境を整備することと、これらの民謡を歴史研究に活用する方法を模索することを目的としている。

研究期間の 4 年間に、録音資料・カセットテープ約 1300 巻のデジタル化を終了し、そのすべてを 1 台のハードディスクに集約した。映像資料については、オープンリールテープ 27 巻を DVD 規格に変換して記録することができた。全資料の検索性データについては、録音・録画のメディアごとの台帳を作成した。

以上の音声資料の一部に基づいて歴史的研究を試みた結果、30 年あまりの間に、同じ集落でありながら、数多くの曲目が継承されていなかったこと、継承されている曲についても、演唱速度（テンポ）がきわめて遅くなり、ピッチも低くなる傾向があることが認められた。

研究成果の概要（英文）：

The aims of this study are to digitize the tape recordings of Okinawa and Amami folk song for preservation, which late Koizumi Fumio, a professor of Tokyo University of the Arts has collected from the 1960's to the 1980s, to prepare the environment for a musical archive, and to try to find a new way for the historical study through the folk songs.

Four years of the study period, we completed the digitization of about 1300 cassette tapes, and integrated into one hard disk. For visual materials, we completed to convert from old-fashioned 27 winding reels to disks of DVD standard. To search for data of all the documents, we have created a register of each medium of recordings.

Based on a part of the materials, we tried to historical study of Okinawan folk song. As a result, during these 30 years, a number of pieces has not been inherited even in the same village, in the performance of the songs that are inherited, it is observed that there is a tendency that the tempo has become very slow and the pitch has become lower.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
21年度	1,600,000	480,000	2,080,000
22年度	1,400,000	420,000	1,820,000
23年度	1,100,000	330,000	1,520,000
24年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	5,300,000	1,590,000	6,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：音楽学、民族音楽学、民謡

1. 研究開始当初の背景

日本の民俗音楽すなわち民謡は、生活の近代化の中で急速に変容し、失われつつある。これを記録し、研究し、次代に受け継がせることは、学術的価値のみならず、日本人の音楽遺産としての高い価値がある。その記録たる録音物は、従来、収集した個人や機関によって保管されているが、研究後は死蔵されたまま劣化していくケースがほとんどである。歴史文書と同様に、公的なアーカイブによって保存措置が講ぜられ、整理と公開がなされていくべきである。

沖縄民謡の場合、民族音楽学のパイオニアであった故小泉文夫氏が1973年から1985年にかけて文部省科学研究費を受け、東京芸術大学の学生やOBの研究者たちを動員して現地採集した大量の録音があるが、未整理のまま、東京芸術大学に保存されていた。このカセットテープの劣化と散逸を防ぐことが今日の沖縄音楽研究にとって急務であり、これらすべてのデジタル化による保存措置と公開とが求められていた。

2. 研究の目的

本研究は、東京芸術大学が所蔵するところの、故・小泉文夫教授主宰のゼミが収集した沖縄・奄美の民俗音楽音声資料について、

デジタルデータベース化を行い、さらにこれを公開して利用に供することの可能な環境を整備することと、その資料に基づいた民俗音楽学的歴史研究の可能性を探ることを目的としている。

3. 研究の方法

録音資料のデジタル化は、原資料がカセットテープの状態であるので、A/D変換のうえ一旦テープごとにCDに記録し、その後そのすべてを1台のハードディスクに集約する。

映像資料のデジタル化は、原資料が旧式のAKAIの規格によるオープンリールテープであるので、現在視聴可能なDVD規格に変換して保存する。

内容メモ、ノート等の文字情報のデジタル化は、原資料が手書きであるので、このまま画像コピーしてPDFファイルにして保存するとともに、録音・録画資料との関連づけを行う。

民俗音楽の歴史的研究については、上記の音声資料に録音されている30年余り前の演唱と、近年に録音された現在の伝承による演唱と比較することによって、30年を経た音楽伝承の時代的变化を実証していくことを試みる。

4. 研究成果

研究期間の4年間に、録音資料のカセットテープ（1巻90分）については、全巻約1300巻のデジタル化を完了することが出来た。各巻片面ごとにA/D変換のうえCDに記録し、そのすべてを1台の大容量ハードディスクに集約した。このハードディスクは、事故・災害による損壊に対応するため、3台コピーを作成し、研究分担者ごとに別の場所（沖縄県立芸術大学音楽学部、同附属研究所、東京芸術大学）で所蔵している。

映像資料のオープンリールテープ（1巻20分）については、全巻27巻のデジタル化を完了することが出来た。1970年代のAKAI社のビデオテープの規格は現在の機器では再生できないため、特殊技術を有する業者の協力を得て、各巻ごとにDVD規格に変換した。そのうち、国頭地方に関する11巻については、編集まで完了し、公開可能な状態のDVDとして製作した。これも、3組のコピーを作成し、研究分担者ごとに所蔵している

以上の全資料の検索用データについては、録音・録画のメディアごとの台帳を作成した。しかし、メディア内をさらに細かく検索することの可能な（例えば曲目ごとの）所在や演奏情報の索引については、フォーマットの検討を進めたものの、実施するためにはさらに膨大な時間を必要とするので、断念した。

また、以上の音声・映像資料に付随する内容メモ等の文字情報についても、録音項目メモ（手書きメモ）を画像コピーしてPDFファイルにする計画であったが、時間的に着手に至らなかった。

音声資料に基づく歴史的研究については、ちょうど、本研究期間とほぼ同時期に沖縄県文化振興会によって「沖縄の古謡調査」が行われており、同会の協力により、その録音データを参照できたので、これらを比較したところ、そのうち一部の比較結果であるが、両資料の時代差である30年余りの間に（一世代余り）、同じ地域でありながら、数多くの曲目が継承されなかったこと、継承されている曲についても、演唱速度（テンポ）がきわめて遅くなり、ピッチも低くなる傾向が認められた。

ただし、より多数の比較による実証や、より多面的な歴史研究への応用については、全体のデジタル化が予想より遅れたため、本格的取り組みに至らなかった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、及び研究分担者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① 金城厚 琉球の外交儀礼における楽器演奏の意味、沖縄県立芸術大学音楽学専攻研究誌ムーサ、査読無、14号、2013、53—61
- ② 金城厚、早ブシ・長ブシの概念による「ふし」の分析、歌と語りの言葉とふしの研究、京都市立芸術大学、査読無、2012、111—126
- ③ 久万田晋、近現代沖縄におけるポピュラー音楽の展開、歴博、査読無、N0. 175、2012、12—15
- ④ 久万田晋、沖縄の民俗芸能の分類、民俗音楽研究、査読有、37号、2012、40—47

〔学会発表〕（計10件）

- ① 金城厚・久万田晋・比嘉悦子、琉球民謡録音資料の保存と公開をめぐる、

- 東洋音楽学会沖縄支部第58回定例研究会、2012年7月14日、沖縄県立芸術大学
- ② 久万田晋、沖縄の芸能・音楽研究の半世紀と今後の課題、シンポジウム〈沖縄学〉を問いなおすー過去・現在・未来へー、2012年8月11日、沖縄県立博物館・美術館
- ③ 久万田晋、20世紀沖縄における民俗芸能の発展～エイサーを中心に～、法政大学沖縄文化研究所総合講座・沖縄を考える(招待講演)、2012年10月19日、法政大学
- ④ 久万田晋、沖縄の民俗芸能の分類について、日本民俗音楽学会第25回沖縄大会、2011年12月18日、沖縄県立芸術大学
- ⑤ 植村幸生、《五木の子守唄》の《アリラン》起源説：その形成と継承、アリラン国際学術会議、2011年12月15日、韓国学中央研究院(韓国・京畿道)
- ⑥ 植村幸生、世界音楽のアーカイビングをめざして：小泉文夫記念資料室の概況と展望、研究者資料のアーカイブズー知の遺産ーその継承に向けてー、2011年11月26日、東京大学情報学環
- ⑦ 久万田晋、沖縄の民俗芸能論ー分類の問題と踊り歌の比較ー、沖縄藝能史研究会、2011年7月2日、八汐荘(那覇市)
- ⑧ 植村幸生、東京芸大図書館蔵『中枢府重修宴契会図』にみる十六世紀朝鮮の宴礼歌舞、東洋音楽学会第61回大会、2010年11月13日、東京学芸大学
- ⑨ 金城厚、人の移動と音楽ー沖縄の場合ー、第60回東洋音楽学会大会、2009年10月17日、沖縄県立芸術大学

- ⑩ 金城厚、「冠船躍」とは何か、沖縄文化協会2009年度公開研究発表会、2009年7月19日、沖縄県立芸術大学

〔図書〕(計1件)

久万田晋、沖縄の民俗芸能論 神祭り、臼太鼓からエイサーまで、ボーダーインク、2011、全370頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金城 厚 (KANESHIRO ATSUMI)
 沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授
 研究者番号：50183273

(2) 研究分担者

久万田 晋 (KUMADA SUSUMU)
 沖縄県立芸術大学・附属研究所・教授
 研究者番号：30215024
 植村 幸生 (UEMURA YUKIO)
 東京芸術大学・音楽学部・准教授
 研究者番号：80262252

(3) 連携研究者